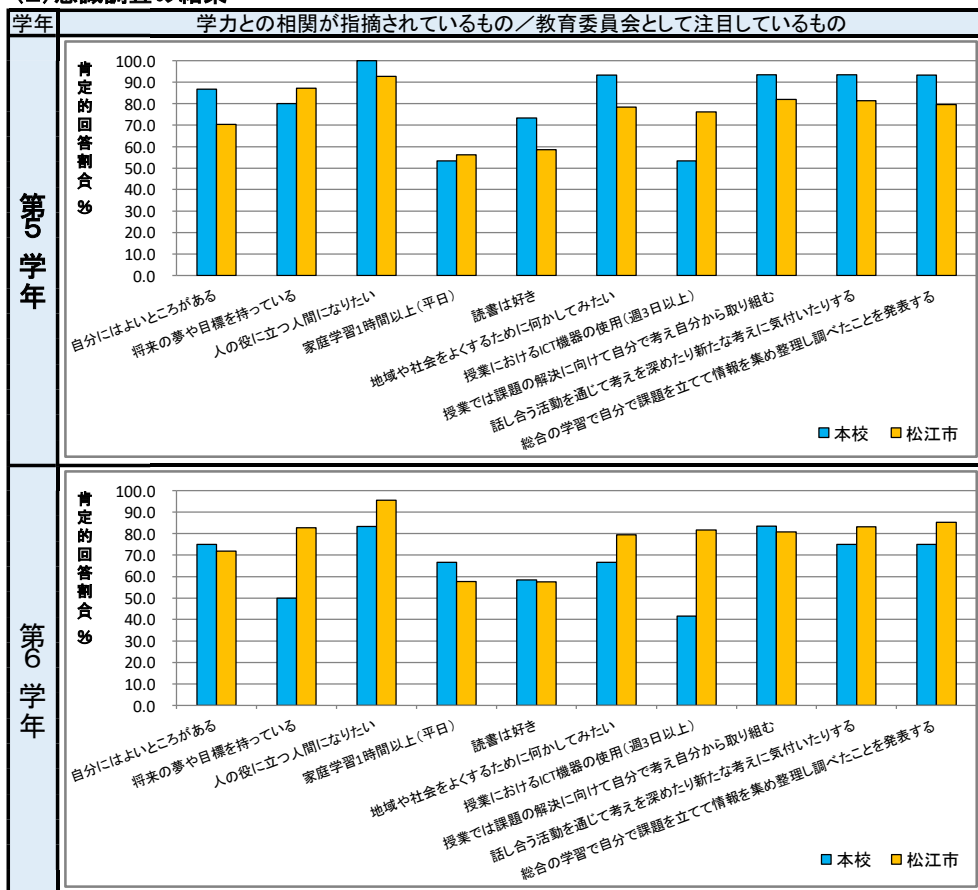


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(-)
第5学年	国語	成果 ○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の問題で、市平均よりも高い正答率となっている。校内での日々の取組(書きとり会・毎日の課題)の成果が表れていると考えられる。 課題 ●「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題で、市平均よりも低い正答率となっており、今後の課題としてあげられる。	・ペアトークやグループトークを取り入れ、人前で話す経験を増やす。それと同時に、相手の意見や考えをしっかりと聞く機会を増やしていく。 ・日々の日記指導、作文指導に力を入れていく。
	算数	成果 ○「合同」「分数のたし算・ひき算」の問題で、市平均よりも高い正答率となっている。校内での取組(計算会や毎日の課題)の成果が表れていると考えられる。 課題 ●「分数と小数」の問題で、市平均よりも低い正答率となっており、今後の課題としてあげられる。	
第6学年	国語	成果 ○「物語を読むこと」の項目で全国推定値を上回り、読書が好きなことと関連している。 ○「情報の扱い方」の項目で全国推定値を上回り、「パンフレットを書く」の項目で市町村平均値を上回っている。情報活用教育を積極的に取り入れていることの成果と考える。 ○「言葉の学習」の項目で市町村平均値を上回っている。書き取り会の成果と考える。 課題 ●「グループで話し合うこと」については、問題の内容により、推定全国値を上回るものと下回るものに分かれる。グループワーク等を積極的に取り入れて話し合いを行っているが、内容を明確にするための工夫や、話し手の考えを比較する力が弱い。 ●文と文との接続の関係や熟語の成り立ち、第5学年の漢字等の復習を行いたい。	・国語で、「話し合って考えを深めよう」の単元を再度復習し、話し合いのポイントを押さえる。 ・ドリルの巻末問題やタブドリ、プリント等を使って、前年度までの漢字を復習し、定着させるようにする。同じく、文法も復習するようにする。
	算数	成果 ○「データの活用」が推定全国値を上回る。「データの調べ方」も上回っている。「データの活用」は2学期の学習内容であり、ICTのフォームなどを活用し、実感的に学んだことの成果が出ていると考える。算数以外にも、情報活用の学習を積極的に取り入れた成果だ。 ○「分数のかけ算・わり算」が平均値を上回っていた。繰り返し練習を行った成果だ。 課題 ●領域「変化と関係」学習内容「文字と式」「比と比の値」が推定全国値を下回った。元にする量や割合に関する問題は誤答が多く、苦手意識も強い。 ●学習内容で「面積と体積」は市の平均値とは同等だが、推定全国値を下回っている。	

(2)意識調査の結果



<傾向と今後の対策、分析>
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】
 ○「人の役に立ちたい」「地域に貢献したい」という気持ちが高い。「自ら学び、話し合い、課題を追求していこうとする」意欲が高い。
 ●家庭学習の時間が十分でないので、家庭学習の内容を検討していく。また、将来の夢を持っていない児童の割合が高いので、全ての教科においてキャリア教育の要素を意図的に取り入れて指導していく。

【第6学年】
 ○自分に良いところの項目が伸びてきた。
 ○情報活用教育や対話的な学習を積極的に取り入れたことで、課題解決・話し合い活動・情報整理の項目は昨年度より伸びてきた。
 ●調査後、将来の夢について調べる学習を行ったので、改善しつつある。
 ●ICTの項目はタブレット使用と考えて回答していたが、電子黒板は毎時間使用している。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	15	名
第6学年	12	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示